**The Quality Horizon – The launch of OASIS V3**

（[https://www.buzzsprout.com/2004393/11166797-what-s-on-the-horizon-the-launch-of-OASIS-v3](https://www.buzzsprout.com/2004393/11166797-what-s-on-the-horizon-the-launch-of-oasis-v3)）

２０２４年８月２３日配信

要約

OASIS（Online Aerospace Supplier Information System）は、航空宇宙業界の認証機関と認証組織が使用するシステムで、審査の結果や不適合に対する対応を記録します。OASISは2004年の初リリース以来、いくつかのアップグレードが行われてきましたが、今後の進化としてOASIS V3が登場します。V3では、より近代的で機能強化されたプラットフォームへの移行が行われ、データの構造化と分析がより容易に行えるようになります。この移行プロジェクトはデータ移行の難しさやソフトウェアの違いによって遅れが生じましたが、ユーザーにはスムーズな移行を提供するための対応策が整っています。さらに、V3ではオフライン監査機能など新しい機能が追加され、将来的にはさらに機能強化が計画されています。このシステムの改善は、業界全体のデジタルトランスフォーメーションの一環であり、より効率的なデータ管理と意思決定を実現するための重要なステップです。

* **OASISの目的**: 航空宇宙業界の認証機関と認証組織が審査結果や不適合対応を記録するシステム。
* **OASIS V3**: より近代的なプラットフォームへの移行で、データ構造化と分析が容易に。
* **進化と遅延**: データ移行の難しさとソフトウェアの違いにより、ローンチが遅延。
* **新機能**: オフライン監査機能などが追加され、将来的にはさらなる機能強化が計画されている。
* **デジタルトランスフォーメーション**: 業界全体のデータ管理と意思決定の効率化を目指す取り組みの一環。

＝＝＝＝＝

**スーザン：**皆さん、ようこそ。クオリティ・ホライズンをお聞きの皆さん。IAQGの公式ポッドキャストです。司会のスーザン・マトソンです。今日は、OASIS の IAQG スポンサーであるスージー・ニールと、IAQG の IT 担当で OASIS V3 のプロジェクトマネージャーであるグレッグ・フォンテーヌが一緒です。ようこそお越しくださいました。

**スージー：**皆さん、ようこそ。

**スーザン：**さて、スージーさん、まずはあなたからお話を伺いたいと思います。もちろん、このエピソードではOASISに関するあらゆることをお話しするつもりです。OASISとは、Online Aerospace Supplier Information System（オンライン航空宇宙サプライヤー情報システム）の略です。でも正直なところ、スージー、OASISとは何なのか、そもそもなぜ必要なのでしょうか？

**スージー：**OASISシステムとは、私たちが認証機関や認証組織と共に使用するシステムで、実施されるすべての審査、その結果、不適合があればそれに対する組織の対応などを記録するものです。そうすることで、認証を受けた組織やサプライヤーは、監査を受けてその結果を見ることができます。私たちがこのシステムを必要としている理由は、もしあなたが大手OEMのサプライヤーであれば、彼らは実際にこのシステムを見て、あなたのシステムの健全性を確認することができるからです。多くのサプライヤーがこのシステムを利用していますし、私たちの顧客もシステムを検証するために利用しています。

**スーザン：**私たちのシステムにとって非常に価値のあるプラットフォームのようですね。OASISの最初のリリースは2004年だったと思います。その進化や歴史について、リスナーの皆さんと共有したいことはありますか？

**スージー：**これまで2、3回システムをアップグレードしてきました。最後に行ったのは6年ほど前で、大規模な機能強化でした。しかし、いずれは現在のシステムが手狭になり、監査員や認証機関、組織が必要とする機能強化や追加を行えるような、より近代的なものに移行しなければならないことは、当時からわかっていました。

**スーザン：**ああ、OASIS V3プラットフォームについて話している理由の大部分は、機能強化にあるんですね。でもグレッグ、そのための動きは何だったのでしょう？どのような技術的なことを強化したかったのでしょうか、あるいは、新しいもので追加データや情報を利用できるようにしたかったのでしょうか？

**グレッグ：**オアシスのバージョンは、当時のIAQGのニーズに合わせて特別に作られたもので、IAQGが設計・構築した、あるいはIAQGが指定した、非常に特殊な機能で作られています。

**グレッグ：**しかしその結果、プラットフォームの改善や拡張を望むたびに、開発グループはいちいち戻って機能を追加しなければならなくなりました。また、非常に多くの機能が、設定や改善という点では開発者しかアクセスできないものでした。OASIS プラットフォームと IAQG が何年か先にどうありたいかを考えたとき、彼らが必要とするレポートや分析機能のための構造化データや機能強化は、単に自社で開発を続けるだけでは膨大なコストがかかるものでした。本質的に、他の場所に存在する車輪を自分のためだけに再発明していたのです。分析プロセスの結果、今後IAQGに対応する最善の方法は、市販のプログラムを自社のニーズに合わせて修正・構成・調整することであり、その方が長期的に大きなメリットがあると判断したのです。

**スーザン：**カスタムから既製品に移行することで、IAQGは何ができるようになるのですか？変更が容易になるということですか？機能強化のための適応が容易になるということでしょうか？もう少し詳しく説明していただけますか？

**グレッグ：**もちろんです。簡単に言うと、IAQG が通常 OASIS に対して行う必要があったほとんどすべてのことが、プログラマーによる開発ではなく、コンフィギュレーションや設定、データ入力によって行えるようになったということです。これによって、いくつかの変更をより迅速に行うことができるようになります。また、IAQG は、幅広い監査・認証コミュニティのニーズを満たすように設計されたプラットフォーム上にあるため、自動的に利用できる機能強化もあります。

**グレッグ：**つまり、IAQG が非常に簡単かつ迅速に変更できる機能強化もあるでしょうし、審査機関や認 証機関、認証コミュニティのニーズを満たすためにプラットフォーム全体が常に進化しているため、プラットフォームの費用以外にIAQGが直接追加費用を負担することなく利用できる機能強化もあるでしょう。

**スーザン：**ビジネスの観点、IAQG の観点からは、この OASIS V3 への移行は記念碑的な変化です。しかし，エンドユーザーの観点からは，何が期待できるのでしょうか？

**グレッグ：**エンドユーザーにとって最大の変化は、明らかに視覚的なインターフェイスになると思います。旧OASISの基本的なインターフェイスは、あなたがおっしゃったように2000年代初頭に設計され、その後10年以上にわたって修正とアップグレードが行われてきました。

**グレッグ：**見た目や操作感は、私たちのために設定・修正された構築済みのプラットフォームに移行するという事実によって劇的に変化するでしょう。データが異なる構造になっていることの利点は、IAQG に代わってその情報を活用することがより簡単で効果的な方法で分析・報告され、構造化されるように設計されていることです。しかし、エンドユーザーの視点から見ると、最大の変化はインターフェイスそのものでしょう。

**スーザン：**素晴らしい。現在OASISにあるすべての情報は、新しいOASISにもあるのでしょうか？

**グレッグ：**はい、何らかの形で。このプロセス全体を通しての私たちの最大の課題は、個別データと呼ばれるようなものをできるだけ多く提供したいということでした。2016年リリースのOASISの第2世代で開始された実際のデータフィールド。私たちは、新しいプラットフォームのマッチング・フィールドや同等フィールドにできるだけ多くのデータを入れて、分析や検索機能、データマイニング機能のために過去のデータを活用できるようにしたかったのです。

**グレッグ：**しかし、古いデータでも、最初の頃にさかのぼれば、彼らは何も入力せず、単に文書やフォームをアップロードしていました。そのデータはすべて、何らかの形で移行されています。ですから、古いデータを古いフォーマットや古い構造で新しいプラットフォームや新しいデータ構造、新しい構造に取り込むのは大変な作業でした。

**グレッグ：**ええ、それは大変な挑戦でした。しかし、IAQGにとって短期的にも長期的にも重要なことだと考えました。このシステムの目的は記録管理であり、過去のデータにアクセスできないような移行をすることは、まったく意味のないことだからです。

**スーザン：**ありがとう、グレッグ。スージー：次の質問は、グレッグがすでに答えてくれていると思うのですが、業界内で言われている遅延についてです。これは今年の初めに発売する予定だったと思うのですが、今はもう今年の初めではないのはご存じだと思いますが、遅れが出ている理由を話していただけますか？

**スージー：**遅れの最大の理由は、あるソフトウェア・システムから別のソフトウェア・システムへ移行する際、テーブルが決して同じではないということです。あるシステムにあったデータが、これから収集しなければならない正しいフォーマットや同じテーブルとは限らない。そのすべてが、システムごとに少しずつ違うのです。

**スージー：** グレッグと彼らは、このデータを移行させるために素晴らしい仕事をしてくれました。しかし、新しいデータをロードするたびに、もしかしたら他の何かがあるかもしれません。常に何かを追加していた。10年前から引き継ごうとしているデータに最初からなかったものが、去年追加されたばかりだとすると、その情報がないレコードが大量に存在することになります。そのため、引き継ごうとすると情報が欠落してしまうのです。そして舞台裏では、実際に本番稼動する前に、その一つひとつに対処しなければならないのです。

**スーザン：**データ移行は本当にクリティカル・パスだったんですね、グレッグ？

**グレッグ：**ええ、その通りです。理論的には、昨年末にはIAQGsの現在のOASISプラットフォームと同等の作業を行えるシステムが完成していました。ユーザーテストでは、より使いやすく、より機能的に、よりスムーズなプロセスを実現するために、人々が変更を望んでいることや、別の動作を望んでいることが確かに見つかりました。私たちは、何度かの繰り返しで、それらすべてに対応しようとしました。

**グレッグ：**しかし、8ヶ月から12ヶ月の間、本番稼動に踏み切れなかったのは、旧システムから新システムへ、できるだけ質の高いデータを移行したかったからです。旧システムでは、データが自由形式のテキストで入力されていたところがありました。

**グレッグ：**新システムでは、そのデータが別のデータと関係づけられています。つまり、自由形式のテキストデータを、可能な限り離散的なデータに変換し、関連付ける必要があるということです。この作業は、私が就任する前、あるいはINTACTのオリジナル・チームの誰が考えていたものより大変なものでした。でも、私たちはそれを乗り越えようとしていますし、すべてが終わったときには、少しは価値があるものになると思います。

グレッグ：何百万行のコードって聞いたのですが。

**グレッグ：**何百万行ものコードが置き換えられ、何千万、何億というデータポイントが変換されます。 私たちは、最終的に得られるものができるだけクリーンで長期的に有用なものとなるように努めています。

**スーザン：**では、ローンチについて話しましょう。人々は何を期待しているのでしょうか？既存のログイン認証情報は使えるのでしょうか？それはどのように機能するのでしょうか？

**グレッグ：**期待されるのは、現在のバージョンのOASISにデータを入力するのを一時的に停止しなければならない短期間のフリーズ期間があることです。この期間中にすべてのデータの最終スナップショットを撮り、そのデータを新しいシステムに移行させるためです。これにより、移行期間中にデータが失われることを防ぎます。また、その間は新しいデータを入力できない日数があることを理解していただく必要があります。

**グレッグ：**移行期間中も、IAQGのすべての資料やデータを参照することは可能ですが、新しい情報を入力できない期間があります。この凍結が終わると、システム内のすべてのアクティブなユーザーに、新しいユーザーへの招待状がEメールで送られます。

**グレッグ：**古い認証情報は使えなくなります。しかし、認証情報を持っていてアクティブなユーザーは全員、自分のEメールアカウントに紐づいた新しい認証情報を作成するための招待状を受け取ることになります。そのような観点からは、移行は非常にスムーズなはずです。最悪の場合、もし誰かのEメールがブロックされたり、キャンセルされたり、スパムフィルターにかかったりした場合は、IAQGを通じて、認証情報をセットアップする他の方法があることを説明します。

**グレッグ：**簡単に言うと、全員に招待状が届くはずです。そして、アカウントを作り直したり、情報を再作成したりすることなく、新しいシステムにアクセスできるようになります。既存の監視リストに至るまで、すべてがクリーンかつスムーズに引き継がれるはずです。

**スーザン：**新しいオアシス、V3がローンチした後も、人々はOASIS NextGenを使えるのですか？

**グレッグ：**データの入力には使えません。繰り返しますが、一度凍結すれば新しいデータは入力されませんが、古いバージョンは存在します。しかし、IAQG が読み取り専用で存在し続けるための資金を提供したいと望む限り、そのバージョンは参照用として存在し続けます。

**スーザン：**ありがとう。ではスージー、トレーニングについてお話ししましょう。どのようなトレーニングが受けられるのでしょうか？どのような文書にアクセスできるようになるのでしょうか？

**スージー：**実は、INTACTが私たちのためにトレーニング資料を作成してくれています。ですから、同じユーザー、同じユーザーレベルであれば、現在と同じようなトレーニングが受けられます。

**スージー：**当然、見た目や操作感も違ってきます。しかし、もしあなたが今日、OASIS管理者向けのトレーニング資料を認定組織レベルで見つけることができるのであれば、それはそこにあるはずです。私たちは、さまざまな時間帯で、おそらく2、3回、さまざまなトレーニング・セッションを開催する予定です。

**スージー：**でも、もし何か質問したい人がいれば、そのように説明します。あなたの都合のいいときにアクセスしてください。私たちは教材をテストしています。2人の人間がテストしています。そして、もし修正が必要であれば、INTACTと連絡を取り、アップグレードのための推奨事項を伝えます。

**スーザン：**スージー、INTACTってどんな会社ですか？

**スージー：**INTACTは、私たちが移行する新しいシステムを実際に所有している会社です。そして、グレッグが働いているジャスピンと提携して、実際にシステムを設定する手助けをしてもらっています。

**スーザン：**ありがとうございます。OASISがいよいよ始動したら、グレッグ、これで終わりですか？さらなる機能強化はあるのでしょうか？

**グレッグ：**いいえ、まだまだです。OASISの最初の立ち上げの目標は、IAQGが現在持っている既存のデータ、機能、プロセスを再現することでした。すでに計画されているものがいくつもあります。

**グレッグ：**この新バージョンがリリースされた瞬間から、次の機能拡張セットを検討し始めます。現在のOASISに組み込まれている機能や、新しいプラットフォームのバージョンにある機能の中には、すぐには有効にしないものもあります。というのも、多くの人が変化を好むわけではないことを考慮して、インターフェースの変更だけでも十分な変化となるため、新しいプロセスの学習が必要となる他の機能にはすぐには手を付けない予定です。

**グレッグ：**それで、すでに利用可能な新しい機能強化のセット全体があります。私たちはそれらをオンにしていないだけで、すでに計画され、追加される予定のものもあります。ちなみに、それは継続的なプロセスです。私たちはすでに、これから登場する新しい規格について知っていますし、どのように展開し、どのように盛り込んでいくかという計画も立てています。

**グレッグ：**そしてまた、この新しいプラットフォームでは、IAQGがほとんどの点でこれまでよりも簡単に機能強化や適応ができるようになったという朗報もあります。

**スーザン：**ああ、それはよかった。OASISを使っている人たちのために、かなり長い間検討されてきたことのひとつに、オフライン監査機能があります。それはあなたが話している機能強化のひとつですか？

**グレッグ：**間違いなく機能強化のひとつです。このプラットフォームが選ばれた理由のひとつは、人々が望み、必要としていたオフライン監査アプリがすでにあったからです。このプラットフォームにはすでに組み込まれていたんです。そして、初日から使えるわけではありませんが、すでにある機能のひとつです。

**グレッグ：**そのためには、また新たな手順を学ぶ必要があるからです。INTACTのプラットフォームでオフライン監査を行う場合、監査オーダーをチェックアウトします。オンライン・システムからチェックアウトされた監査オーダーは、コンピュータやタブレットなど、どのようなデバイスでも利用することができます。

**グレッグ：**監査を行い、再びチェックインする。その間、誰もオンライン版をいじってはいけない。このようなプロセスやその他のことを理解し、インターフェイスのその他の変更点を理解することは、初日に導入することではありませんでしたが、オフライン監査は新しいプラットフォームの一部です。

**グレッグ：**実はすでにあります。ただ、新プラットフォームへの全面的な変更に伴い、そのロールアウトに取り組むつもりはありませんでした。そのようなものは他にもありますし、他のものも計画されています。ちなみに、これは確か、スージー、間違っていたら訂正してほしいんだけど、本来は第2世代に含まれるはずだったもので、それに関連する当初のコストのせいで無期限に延期されたものだったのです。

**グレッグ：**繰り返しになりますが、商業的に開発された業界横断的なプラットフォームに移行することの利点の1つは、その種の機能は必ずしもIAQGが今後資金を提供しなければならないものではないということです。認証審査業界全体が望む機能があれば、INTACTはそのプラットフォームを改善し続けるでしょう。そしてそれらの機能は、IAQGがプラットフォーム上に存在することの単なる一部として利用できるようになるでしょう。

**スーザン：**スージーさん、OASISv3 は、私たちが実際にこのプロセスを開始するずっと以前から、おそらく次世代版のロールアウト以来、何年もかけて作られてきました。OASISを立ち上げの日に持っていくために、誰がこの旅に参加したのかを教えてください。

**スージー：**認証機関には本当にたくさん参加してもらいました。認証機関の審査員もOASISに深く関わってくれました。IDRとSDRには複数の執筆チームがあり、これらは業界の文書担当者です。業界文書の担当者たちです。また、INTACT、ジャスパー、そして以前は業界と仕事をしていたコンサルタントの人たちも、現在はさまざまなチームで私たちと一緒に働いてくれています。

**スージー** 初日から、IAQGの経営陣は、非常に質の高い製品ができるとわかるまではリリースしないと言っています。というのも、もっと早くリリースすることもできたのですが、それがみんなが必要とするものであったかどうか、また、みんなが組織や品質管理機関に期待するものであったかどうかということです。

**スージー：**このプロジェクトには多くの人が携わっていて、ロールアウトする前に本当に良い製品にするために多くの努力が払われてきました。INTACTとOASISの両方から始めるには良い製品ですが、この2つを組み合わせ、そこにあるすべてのデータを使って、ここまでたどり着くには大規模なチームが必要でした。

**スージー：** 私たちがこのシステムを導入する際には、全員が前向きな姿勢で取り組むことがさらに重要になります。どんなシステムであろうと、完璧なシステムなど存在しないのだから。問題が発生する可能性は？それは保証する。しかし、それは解決できる。そのために、大規模なネットワークが必要なのです。

**スーザン：**業界全体を代表するためです。ですから、これは大きな事業です。あなたが言ったように、2人でも10人でもなく、何百人もの人たちがこれを見たり、見たり、テストに参加したりしてきたのです。

**スーザン：**次に進む前に、最後にひとつだけ、より大きなデジタルの話題について話したいと思います。アンディのエピソードに戻りますが、私たちはデジタルトランスフォーメーションや、データをより使いやすいものに変えることの重要性について話しました。オアシスのようなものは、より大きな全体的なプロセスの一部に過ぎません。しかし、あなたが見ているこれらの変化はどのようなものなのでしょうか？グレッグ、ITの観点から始めますが、これらの変化のおかげで私たちができるようになったことは何でしょうか？

**グレッグ:**おお、すごい。このプロジェクトは、IAQGが行っている、ウェブでのプレゼンスから、メンバー管理、コラボレーション能力、SCMHや辞書、AIMMのようなリソース、さらには経理やeビジネス面をどのように処理するかまで、ほぼ全てに及んでいると思います。

**グレッグ：**ここ3年か3年ぐらい、もしかしたらもうちょっと長いかもしれませんが、その間に行われた作業は劇的なものでした。実際の会員管理システムの一部やデータ、関係者やそのやり取りを見ることができるようになった。

**グレッグ：**そうですね。私たちがOASISでやっていることも含めて、そのすべてはデータと、それを見て理解し、今後のよりよい意思決定のために活用する能力に帰結します。私がよく使う大きな言葉は、このプロセス全体とOASISはその最後の部分であり、IAQGから聞いた話と彼らが望んでいる方向性に基づいて、航空宇宙品質の管理団体としての彼らの努力をあらゆる実用的な目的でサポートできる優れたIT基盤を手に入れ、彼らがやりたいことをより効果的に行い、業界全体を改善し続けるために必要な洞察力情報ツールを提供することだったということです。

**グレッグ：**そして、その変化は劇的なもので、私たちは確実にそれを達成したと思います。OASISが完成し、立ち上げられるとすぐに、同じように、私たちは次の機能強化を検討するつもりです。おそらくまた、「他のツールはもう2、3年使っている。次はどうする？今から3年後、最終的にどこにたどり着きたいですか？」そして私たちは、彼らが計画を立て、それを継続させる手助けをします。

**スーザン：**スージー、ビジネスの観点からも業界の観点からも、あなたはこの業界にずっと携わってきたと思いますが、何か付け加えることはありますか？

**スージー：**ここでの最大のポイントは、認証を受けた組織、OEM、サプライヤーが、これらの組織や具体的な問題を抱えている場所について、より詳細なデータを入手できるようになったことだと思います。その大きな要素のひとつが、OASISのフィードバック・プロセスです。規制当局やDCMAの多くは、現在これを利用しています。実際に、9018という規格があり、そこではOASISのフィードバックを利用しています。そのため、彼らが自社内で見つけた問題を認証された組織や認証機関にエスカレーションする方法が整備されています。これにより、さらに深く問題を掘り下げることができるようになります。

**スージー：**DCMAと規制当局にとって、これは大きなメリットの1つですね。そして、私たちは継続的に、データを引き出すことができるさまざまな方法を目にすることになるでしょう。私たちは、特定の認証組織だけを見るようなことはしたくありません。しかし、私たちはそれを集約し、私たちの問題の多くがどこから来ているのかを知ることができるのです。

**スージー：**納期やマネジメント・レビューの問題であれ何であれ、設計や開発の問題であれ、執筆チームはその情報をもとに、次のバージョンの規格を作成することができます。私たちがここにいる本当の目的は、規格を改善し、プロセスを改善し、ステークホルダーが私たちの提供する製品やこれらの組織から生まれる製品に満足するようにすることです。

**スーザン：**もちろんです。お二人ともありがとうございました。グレッグ、ありがとう。ありがとう、スージー。OASIS V3だけでなく、一般的なIAQGのデジタル・トランスフォーメーションについて、様々なことをお聞きすることができ、とても嬉しく思います。このプラットフォームについてもっとお知りになりたい方は、IAQG.org にアクセスして、tools の下にある OASIS V3 のウェブページをクリックしてください。IAQG クオリティ・ホライズンをお聴きいただきました、スーザン・マトソンです。次回までご安全に。